SINCE 1971
JSWH
The Japanese Society for Wound Healing
NEWS LETTER
日本創傷治癒学会
2011.10
No.65

創傷マネージメントの経済を考える

埼玉医科大学 形成外科教授 市岡　滋

医療・介護は従来コストと目され、削減一辺倒の対象となってきた。2005年の時点で日本の医療費の対GDP比はわずか7.9％でOECD加盟25カ国中22位と先進諸国中最低レベルであった。これに2006年から毎年社会保障費の医療費増加分2,200億円を削減するという超低医療費政策が輪をかけ医療崩壊の大きな要因となったのは周知の事である。この反動もあり現在の新成長戦略では医療・介護・健康分野は日本の強みを生かした成長分野と位置づけられ、需要に見合った産業育成と雇用の創出が期待されるようになった。これまで削減するべきコストという概念で考えられていた医療が経済活動という視点で語られはじめたといえる。なかでも高齢化や生活習慣病に対する治療ニーズは高く、これに起因する褥瘡、糖尿病性・虚血性下肢潰瘍など慢性創傷マネージメントへの要望も拡大しつつある。

それではわが国では創傷マネージメントにどの程度の費用が投入されているか？　把握しやすいところで創傷被覆材の市場規模は2008年の1年間で77億2500万円（矢野経済研究所調べ）であった。これに対し同年米国での規模は1570億円、西ヨーロッパでは1368億円（Fost & Sullivan調べ）である。日本では創傷被覆材より軟膏などの外用剤を多用する傾向があるのでその市場を調べると総額89億円。創傷被覆材と足しても166億円で人口差を考慮してもわが国で創傷マネージメントプロダクトにかける費用は格段に安い。

これには様々な社会・福祉制度が関係するがDPC（Diagnosis Procedure Combination；診断群分類）もその一つである。DPCの診療報酬では多くの医用材料や処置料、投薬料は包括支払いとなる。すなわち創傷被覆材や外用剤を使っても使わなくても医業収入は同じということで使わないほうが得というインセンティブになり得る。これは本来恩恵を受けるべき患者にとって不利益であるのは当然だが、最終的に医療従事者・経営者の首を絞めることにもなる。包括払いの処置、材料、薬剤についても病院は実際に何を使って（Eファイル：診療明細情報）、何を行ったか（Fファイル：行為明細情報）を詳細に報告することが義務付けられている。これらは新たなDPCの包括点数（診療報酬改定ごとに見直される）を決

●日本創傷治癒学会事務局
〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室内
tel.03-3351-4774
fax.03-3355-4707
e-mail: info@jswh.com
URL : http://www.jswh.com

めるための根拠となる。つまり創傷被覆材や外用剤をケチる診療を続けると「創傷治療には創傷被覆材・外用剤は使わない」というデータが集積し、これを前提に将来の診療報酬は下がり、病院経営を圧迫することになる。これではいかにテクノロジーが発展しても最先端の治療を遂行することは不可能となる。

広義のチーム医療には医療産業界も含まれるがそこへの影響も深刻となる。産学共同や企業の研究開発は進歩の原動力となる。現在創傷マネージメント、limb salvageの分野では関連企業が主催・共催する各地の研究会・講演会が知識・情報の獲得だけでなく専門領域の啓蒙や医療スタッフの職種（医師、コメディカル）・診療科を超えた連携に大きな役割を果たしている。全国規模の学会も産業界の参加・支援が必須である。製品によるbenefitに見合った収入がなければこれらはすべて立ち行かなくなる。

創傷のプロフェッショナルには目先の損得にとらわれず、患者の利益、医療経済、産業を含めた医療界全体を視野に入れたマネージメントが望まれる。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume19.4に掲載されました。論文名、著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましてはジャーナルホームページ、http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=1067-1927&site=1より入手してください。また各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

飯坂 真司 先生（東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野）
須釜 淳子 先生（金沢大学大学院 医学系研究科保健学科）
仲上 豪二朗 先生（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野）
内藤 亜由美 先生（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野修士課程）
松尾 淳子 先生（大阪医科大学看護部）
紺家 千津子 先生（金沢医科大学 看護学部）
真田 弘美 先生（東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野）

「Concurrent validation and reliability of digital image analysis of granulation tissue color for clinical pressure ulcers」
P.455～463